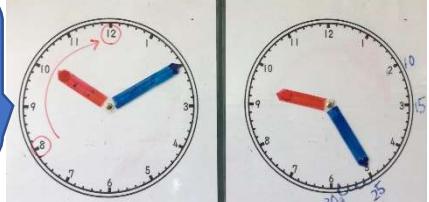
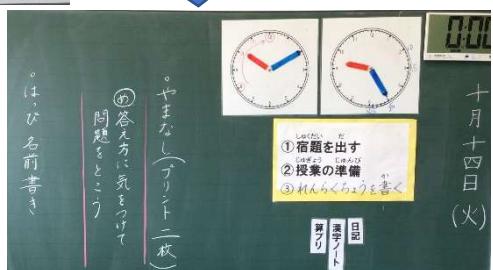


特別支援学級 実践事例

校種 (学級の種別)	小学校 (自閉症・情緒障がい特別支援学級)	本事例の 教科等名	自立活動
在籍児童 生徒の実態	2年生1名、3年生3名 6年生2名 計6名 全体的に行動の切り替えが難しい。活動中に興味があることに気が散ることがよくある。活動内容と時間を確認していても、時間を意識して行動することが難しい。	目標 ・ 指導 内容	【目標】 見通しをもって活動する。決まった時間までに課題を行う。 【関連する内容】 1、心理的な安定(1)(2)(3) 2、環境の把握(5)
指導の経過・工夫点・ 子どもの変容	<p>視覚的に活動時間がわかるよう、矢印で示している。</p>  <p>毎日固定の活動やその時間の授業の流れを示している。</p> 	<p>指導・支援の経過</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝、教室に入つてすること「①宿題を出す②授業の準備をする③連絡帳を書く」の流れを声かけする。 黒板に書かれている「授業の流れ」と授業の終了時間を確認させ、活動の見通しをもたせる。 <p>児童の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月は入室と同時に遊び始め、声かけをしても活動に取りかかるまでに時間がかかった。 5月から黒板の掲示を始めた。最初は慣れていないため、1つずつ指示を出さないと動くことができなかった。また、周りの雰囲気や自分がしたいことに気をとられて、活動が中断する姿が多く見られた。 1学期後半から2学期に入って、「①～③をするよ」という声かけで、自分で取り組む児童が増えてきた。また、授業の教科を見て自分で道具の準備をしようとする姿が見られた。 	
成果と課題・今後の方向	<p>○①～③までの流れに慣れたことで、授業にスムーズに取り組むことができるようになってきた。</p> <p>○切り替えが難しい児童も、見通しが持てることで、不安感や気分の浮き沈みが少なくなり、学習への抵抗が減った。</p> <p>○「先生もう出したよ!」「準備したよ!」と、自分でできたことを喜ぶ姿が見られた。</p> <p>▲活動の流れを細かく書きすぎると、視覚的に情報量が多く、やる気をなくす児童もいた。</p> <p>▲大まかな流れしか提示していないため、細かい活動を指示すると結果的に活動内容が増え、やる気がなくなる児童がいた。</p>		